

ラジオNIKKEI ■放送 毎週木曜日 21:00~21:15

マルホ皮膚科セミナー

2012年11月8日放送

「第111回日本皮膚科学会総会① 会頭講演
進化する皮膚科：知と技を磨く」
筑波大学大学院 皮膚科
教授 大塚 藤男

はじめに

本日は「進化する皮膚科：知と技を磨く」と題してお話し申し上げます。このテーマは今年6月1～3日に国立京都国際会館で開催しました第111回日本皮膚科学会総会・学術大会のメインテーマです。従いまして本日は今年の皮膚科学会総会を話題にご報告いたします。

まず初めに、第111回日本皮膚科学会総会を無事、盛会裡に終了しまして、改めまして、日本皮膚科学会の会員の皆様、関連する医学・医療関係者の皆様に篤く御礼申し上げます。

筑波大学が皮膚科学会総会を担当するのははじめてですし、第110回が未曾有の東日本大震災により残念ながら中止されて2年ぶりの総会であることなど不安要因がありましたが、「進化する皮膚科：知と技を磨く」のテーマのもとに5200名もの参会者を数え、記念講演、特別講演、特別企画、教育講演などのセッション何れも大変に賑わいました。第111回は数字の1が3つも並んだ会ですが、その縁起の良い数字に恥じないよい総会にできたのではないかと安堵しております。

さて「進化する皮膚科：知と技を磨く」ですが、今日、医学も、皮膚科学も勢いよく



図1 第111回日本皮膚科学会

進歩しています。分子医学や遺伝学、免疫学の長足の進歩とともに、これまで混沌としていた病態が解明され、的を絞った薬剤の開発を含めて新しい治療法が次々と世に出ています。このように進化しつつある皮膚科学を知と技の面から学び、磨きをかける、これが皮膚科医、皮膚科専門医、あるいは皮膚科学を学び、研究する多くの人々にとって重要な課題、生涯教育の一助と考えまして、これを目標に各種企画を準備しました。学会の初めに「筑波大学と皮膚科」と題して筑波大学の沿革、皮膚科の歴史とともに皮膚科の診療、教育、研究テーマとその業績を紹介しました。悪性黒色腫を中心とした皮膚悪性腫瘍の診断や治療の研究、神経皮膚症候群、特に NF1 の病態の研究、光医学や光老化防止の研究、表皮角化細胞の角化制御因子の研究などです。皮膚科の教室としては小ぶりですが、30 数年の間の診療、研究、教育の着実な歩みを、また新構想大学としての筑波大学における皮膚科の位置づけをご理解いただけたのではないかと考えています。

総会の内容について

記念講演として筑波大学山田信博学長に「メタボリックシンドローム」をご講演いただきました。地球環境の破壊や保全と生命体としてのヒトにおけるメタボリックシンドロームへの対応にアナロジーを見ながらの大変にスケールの大きい、広い視野からの講演に感銘を受けました。人間も動物もその体に飢餓には各種の対応力を備えているが、過剰栄養の摂取への備えは限られているとの指摘に私たちの食餌摂取の歴史と生命体としての進化の歩みを再認識しました。

特別講演 1 はコロラド大学の Dennis Roop 教授が iPS 細胞の治療への応用、可能性をお話下されました。特別講演 2 では高雄医学院の余幸司教授が白斑の光線治療の分子機構を講演されました。両講演で再生医療の基礎研究や光線治療の作用機序など近年の皮膚科の知と技の進歩を分かりやすく解説していただきました。特別企画には「Cutting Edge : 知と技」と「大震災と皮膚科」を設けました。前者では東京医科歯科大



図2 会頭講演

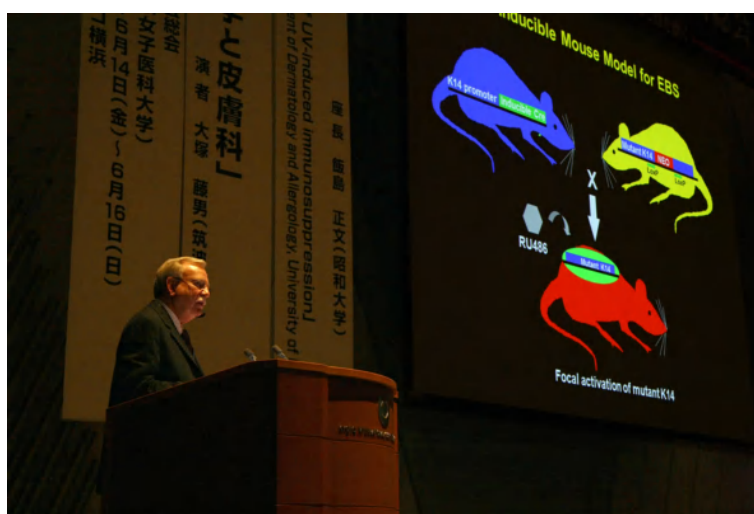


図3 Dennis Roop教授講演

学西村栄美教授に「毛包のステムセルエイジングと老化」、東京大学光嶋勲教授に「超微少外科手技(スーパーマイクロサージャリー)を用いた美容再建」の講演をいただき、知と技の最先端に目を見張る思いがしました。Cutting Edgeをお聞きになった皆様大変感動されたようです。

「大震災と皮膚科」は皮膚科学会を中心とした震災地域での皮膚科診療活動を総括して危機時の皮膚科医療・皮膚科医のあり方を考えるよい機会を提供できたのではないかと考えています。このような危機は2度と起こらないことを祈りますが、何が出来るか何が必要とされるかの議論を通して危機対応の皮膚科の知と技が求められであろうと考えています。

「教育講演、一般演題など」をご報告します。

教育講演は50題を設定し、それぞれのオーガナイザーに代表的なあるいは重要な皮膚疾患の診断や治療、その病態などについての知と技を広げるような講演を組んでいただきました。どのセッションも賑わいを見せて会員諸先生の生涯教育に資する面が大きかったと自負しております。一般演題は400題近い多数に及び、従来通りポスター発表形式を踏襲しました。第111回では新たにデジタルポスター、すなわち会場に用意しました20台のPCでいつでも多数の一般演題を瞬時に閲覧可能にしました。新しい試みが便利でよかったと評価していただいております。ポスター討論も活発で、11名がポスター賞に、そのうちの1名が新たに創設されましたWilliam Epstein賞に輝きました。受賞者を会員懇親会で表彰しております。

「プログラム・抄録集」に新しい試みを設けました。

皮膚科学会の抄録は日本皮膚科学会雑誌の臨時増刊号に掲載されますが、第111回では新しい試みとして“My Abstract”(電子抄録集)を設けました。会員自身の電子機器を用いて自由に演題を涉猟できますし、各種の操作が可能で大変便利と高く評価していただきました。新しいプログラム集のあり方を開拓して次回以降も続くのではと期待しています。また、My Abstractに加えまして携帯に便利なポケットプログラムも用意しまして参加者の便に供しました。好評でした。

「懇親会など」をご報告します。

懇親会は1300人以上の多数の参会者を数え盛況でした。ポスター賞の表彰の後に「筑波のガマの油売りの口上」、続いて筑波大学の「ロボットスーツ」のデモンストレーションと、筑波の新旧をお楽しみいただきました。ロボットスーツはいわゆるスーパーマンの様なパワーアップ補助装置で、筋肉の動きを瞬時に



図4 懇親会の「ガマの油売り口上」

検出して筋力アップ、重いものでも軽々と持ち上げられる優れものです。介護の現場などで実用に供されつつあります。ト리는皮膚科医でもある「川添」歌手の歌曲で、しっかりと懇親会を締めさせていただきました。6月初めの京都の夜は急ぎ足で更けました。

ランチョンセミナーなどスポンサードセミナーも盛況で、64セミナーに及びました。展示会場には各種治療薬、診断・治療の機器、さらには化粧品などのブースが200を数えて大いに賑わいました。また同会場には京都の和菓子、筑波の洋菓子のスイーツが並び、学会の合間に味覚の楽しみにも供することができたのではないかと考えています。

おわりに

6月初めの京都の第111回日本皮膚科学会総会が会員の皆様、関係者の方々、関連する企業の皆様のご協力をおもちまして、意義深い、記憶に残る総会となり、盛会裡に終了できましたことに心より感謝申し上げます。「進化する皮膚科：知と技を磨く」をテーマにした第111回日本皮膚科学会総会・学術大会についてご報告申し上げます。



図5 第111回総会事務局一同